

園番号 605

## 令和元年度 奈良市立大宮幼稚園 研究実践概要

園長名 上野 真喜子

全園児数 64名

1. 研究主題 たくましい心と体をはぐくみ、主体的に活動する幼児をめざして  
—夢中になって遊べるための環境構成や援助の工夫—

2. 研究年度 初年度

### 3. 研究主題設定理由

校区内に子ども達が触れ合って遊ぶ場が少なく、幼稚園は数少ない安心してじっくりと遊べる場になっている。園での遊びの様子を見ていても、体の使い方にぎこちなさが見られたり、運動経験の不足を感じたりする。また、子ども達は自ら環境に関わり、様々な経験を重ねているが、途中で諦めてしまったり、友達や保育者の考えに頼って遊んだりする姿もみられる。子ども自らが心と体を動かし、夢中になって遊ぶことができるような、保育内容の創造や保育者の援助、環境構成について探り、体を使って遊ぶ楽しさや諦めずに最後までやり遂げようとする力を育み、主体的に活動する幼児を育成していきたい。

### 4. 具体的な研究内容

#### ①研究のねらい

・各年齢における発達の姿や保育の在り方を見極め、たくましい心と体をはぐくみ、夢中になって遊べるための、環境構成や援助の工夫を探る。

#### ②研究の重点

- ・研究主題について、職員相互の共通理解を図る。
- ・子ども達の興味や意欲を察知し、夢中になって遊べる環境構成や援助の在り方を探る。
- ・保護者や地域の方々との連携を深めるとともに、地域の環境や人との関わりをいかし、保育内容の充実に努める。

#### ③活動の方法 援助や環境構成の工夫 夢中になって遊んでいると思われる箇所

#### 【4歳児『落ちない泡をつくりたい』】

○かたい泡をつくらうと、水の量を調節しながら泡づくりを楽しむ。

〈6・7月〉石鹼をおろし器で削り、石鹼の粉と水をボウルに入れて、泡立て器でかき混ぜ、泡づくりを楽しんでいる。つくった泡を保育者に見せるが、そのやり取りを見ていた4歳児、他クラスの子子ども達が「私のは、(ボウルを) ひっくり返しても落ちないよ」と見せたことをきっかけに、落ちない泡づくりに取り組む。保育者の「どうしたら落ちない泡ができるのかな」の声かけで、水が多いことに気付き、石鹼の粉にペットボトルに入れた水を少しずつ足してかき混ぜる。しばらく泡立て器でかき混ぜ、「さっきよりフワフワになってきた！」と喜ぶ。その後も何度も繰り返し楽しみ、落ちない泡を実現させた。

#### 《反省・評価》

・同じ場で遊んでいた他クラスの友達に刺激を受けて、落ちない泡づくりが始まった。保育者が水の量と泡の硬さの関係性に気付けるように声をかけたり、子どもの気付きを受け止めたりしたことで、より自分の思いを実現しようと意欲的に取り組む姿につながった。また、できた喜びを一緒に遊んでいた友達や保育者と共に味わったことが達成感につながった。

### 【5歳児『ダンスショーをしよう』】

- 友達と振り付けや、踊る順番などの構成を考え、協力して遊びを進める。
- 音楽に合わせて体を動かすことや、自分なりの表現を楽しむ。

〈10月〉廊下にステージをつくり『ダンスショー』をすることを楽しんでいてA、B児。A、B児がウレタンマットを敷き、ステージ、観客席をつくる。好きな曲で踊っていると、C児、D児、E児も加わり、「ダンスショーをしよう」と、お客さんに見せることを考え始めた。曲に合わせて、振り付けを考え踊る男児達。踊りながら、A児「順番に跳ぼう」B児「うん、それで揃えよう」と提案し、1列に並びジャンプしていく。保育者は「ジャンプの着地のポーズがかっこいいね」と認めると、C児「もっと高く飛びたい」と話す。保育者は翌日半月型のジャンピングを用意した。A児「これ（ジャンピング）使えそう。跳んで順番に登場していこう」B児「それいいね」と次々にジャンプし、着地して座ってポーズを取り、次の友達が来るのを待っている。全員がジャンプし終わるとまた立ち上がり、ダンスをし始める。保育者が「足の動きが揃ってるね」と認めると、互いに目くばせをし、自分達の足の動きを見ながら揃えようとしていた。次第に観客も増え、手拍子をされたり、「かっこいい！」などと声を掛けられたりすることを喜んでいて。A児「もう1回しようー！」B児「次は何の曲する？」C児「チケットもつくるわ」と遊びが継続していった。

#### 《反省・評価》

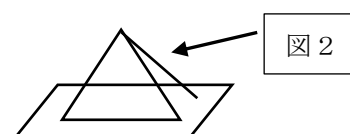
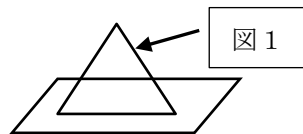
・男児達が数名で踊ることを楽しんでいて。ただ音楽に合わせて踊るだけでなく、跳ぶ、着地するなどのダイナミックな動きにおもしろさを感じ、友達と何度も繰り返しジャンプしていた。保育者が動きの揃っている点などを具体的に認めたことによって、友達の動きを見て更に動きを合わせようとしていたり、自分たちのダンスに自信をもったりしていた。また、自分達で考えた振り付け、曲順などの構成を観客に見てもらうことで満足感を感じ、継続して遊ぶ姿に繋がった。

### 【5歳児『大きなテントをつくりたい!』】

- 友達と一緒にテントづくりをし、協力したり役割分担したりしながら遊びを進めていく。
- 思ったことや考えたことを、友達と一緒にいろいろな方法で工夫して表現する。

〈12月〉A児が友達と一緒に話し合っていてテントづくりをしている。新聞紙を細く丸めた棒状のものをまっすぐに立て、開いた新聞紙に養生テープで貼りつけ、テントの土台にしてみたが、倒れてしまう。「無理そう…」と諦めの言葉が出てきたため「どうすれば倒れないかな？」と保育者が子ども達と一緒に考える。「屋根みたいに三角に貼りつけてみたらどう？」とC児の提案(図1)を受けA児とB児も棒状の新聞紙を三角に合わせてそのまま貼りつけてみたが立たない。「三角になって立ちそうだったのに惜しかったね。どうしていく？」とC児の提案を受け入れながら、難しさを共感し、再び他の方法を一緒に考える。するとD児が「支えがないとダメだよ」と棒状の新聞紙を貼って支えにする(図2)と倒れずに立つことが出来た。「やった! 立ったよ!」「本当だね! Dくん凄いね!」と嬉しそうな表情を浮かべてみんなで立つことが出来た喜びを分かち合った。「支えは気づかなかったわ。立つことが出来て良かったね。」とD児の提案を認め、子ども達と出来た喜びや達成感を共感した。その後も引き続き役割分担をしながら、テントづくりを楽しんでいた。

※テントは  
1m程度のものである



#### 《反省・評価》

- ・子ども達が考えたり、試したりしながら遊びを進めていけるように保育者は様子を見守ったことでいろいろな考えを出し合い、試行錯誤する姿が見られた。
- ・失敗したことを次の意欲になるように保育者も一緒に考えたことで継続して遊ぶことに繋がった。

#### 【4歳児『大縄跳び楽しいね』】

- 大縄跳びに挑戦し、体を動かすことを友達と一緒に楽しむ。
- 友達の刺激を受けて、苦手なこともやってみようとする。

〈2月〉数人の幼児が大縄跳びを跳んで楽しんでいた。傍で見ていたD児にA児「一緒にやろうよ」と声を掛けるが、「跳べないからいいや」と諦めていた。その姿を傍で見守りながら、他児と一緒に大縄跳びに挑戦したり、跳んだ回数を数えたりして、D児に楽しさが伝わるようにした。数日後、傍で見ていたD児に、B児「入り跳びが怖いなら、普通跳びしてみたら」D児「できないよ」A児「諦めなかったらできたよ」と、D児に声をかけ励ます姿が見られた。すると、迷っていたD児が「一回やってみようかな」と挑戦し、2回続けて跳ぶことができた。「諦めなかったから、できたね」とD児を認めるとともに、励ました他児にも「Dちゃんを、励ましてくれてありがとう。だから跳べたんだと思うよ」と声をかけ、思いやりをもって接した子ども達に嬉しさを伝えた。その後も、D児が大縄跳びに入り、一緒に楽しんでいた。

#### 《反省・評価》

- ・D児は大縄跳びに興味はあるが、跳ぶことに自信がなく様子を見ていた。友達同士で励まし合ってほしいと思い、その様子を傍で見守ったり、迷っているD児に楽しさが伝わるような援助をしたりした。数日間、D児は大縄跳びの傍で嬉しそうに見ていたが、友達からの誘いや励まし、応援の言葉を聞いて、自らやってみようという気持ちになった。D児の気持ちに寄り添うとともに、この時期の友達同士の関わりを見守り、さりげなく援助してきたことが、意欲と行動に繋がった。

### 5. 研究の成果

- ・子ども達が夢中になって遊びこむためには、日頃から、一人一人の遊びに対する関わり方や思いを丁寧に汲み取り、遊びのどこに興味や関心があるかを見極める力が必要であることを改めて感じた。
- ・子どもの育ちを見据えた保育内容の工夫や、タイミングの良い援助、じっくりと取り組める場や時間を保証し、自ら選択できる環境構成の必要性を実感した。
- ・子ども達が遊びの中で、自分の思いや考えを実現させたり、何度も繰り返し諦めず取り組んだりする過程を大切にすることが、自信になっていく。そしてこれらの経験を積み重ねていくことで、より達成感や満足感を味わい、自ら心と体を動かす主体的な子どもの育ちに繋がっていくことを再確認できた。

### 6. 今後の課題

- ・今後も引き続き、子どもが主体的に様々な環境に関わり、少し困難なことでも自分なりに考えたり、工夫したりして、自分の力で解決しようとする力や、最後までやり遂げようとする力を育てていきたい。そしてこのような経験を積み重ね、子ども自身が自分のものとしていけるように日々の保育を振り返り、遊びの充実に向けて、日々研鑽していきたい。